

I 継続実施の広報・啓発

1 テレビCM等の放映

- 6月上旬から、1回15秒、1日当たり2回程度のCM放映を開始（令和6年3月末まで実施）
- 内容としては、令和4年度分5種類に加え、新たに3種類追加（8月から）
- 計7回の情報番組パブリシティ又はミニ番組の放映



2 動画配信サイト広告の実施

- 6月中旬から、動画配信サイトYouTubeにおいて、主に30歳代までを対象とした動画広告を実施
- 動画の内容は、上記1のテレビCMと同様
- 県の多様性・寛容性に向けた取組をPRするため、8月からは、首都圏においても配信予定

【新聞広告】



【令和4年度副読本マンガ（小学生用）】

3 全戸配布広報紙への掲載及び新聞広告の実施

- 県全戸配布広報紙あきたびじょん9・10月号に記事を掲載
- 8月6日、県内3紙に広告を掲載
フルカラー 5段 3紙計 約267,500部

4 児童生徒向け副読本の配布

- 小5、中1、高1の児童生徒に副読本を配布
- 対象の全児童生徒、約23,000名に配布予定（12月頃）
- 内容については、令和4年度配布分に関して、各学校に依頼したアンケートに基づき改訂
- 小5向けとして、副読本とともにテレビCMのロゴを活用したバッジを作成し配布（約7,000個）

① 男子なのに、女子なのに



5 理解促進動画の配信

- 理解促進動画「喫茶ダイバーシティ」を動画配信サイトYouTubeで配信
- 県民意識調査の結果を踏まえた内容の再現動画を追加
- 県庁内各部署、市町村、各種団体等に視聴に関する依頼
- 出前講座等での活用



6 研修・講座等の実施

- 県・市町村の新規採用職員研修（計5回実施）において、多様性に満ちた社会づくりに関する研修を実施
- 民間企業・各種団体等の求めに応じて、各種講座等における説明を実施

7 フォーラムの開催（予定）

- 9月1日、大学教授・タレントのにしゃんた氏を招き、多様性に満ちた社会づくりフォーラムを開催
- また、次の4名を招き、パネルディスカッションを実施

<パネリスト>

- 秋田県女性会館 代表理事 高山 万紀子 氏
- eSocial Cue 株式会社 代表取締役 若狭 利伸 氏
- 結婚相談所「maricoco」 代表 松倉 みほ子 氏
- フリーペーパー「ももふく」 編集長 豊島 香香 氏

（講演）
テーマ「違いを楽しみ、力に変える」
（講師）
○ 秋田県大学教授/タレント にしゃんた氏
（パネルディスカッション）
テーマ「ちがいをたがいに思いやる、みんなに優しい秋田を目指して」
多様性に満ちた社会づくりフォーラム事務局
〒010-0921 秋田県秋田市3-34 ADTCビル4階（県庁内） TEL 018-803-0811 MAIL form@akitaforum.jp
◎皆様に関心して参加いただくために、最善の開催環境対策へのご協力をお願いいたします。

II 令和5年度における新たな取組

1 ワークショップの開催

- より効果的な広報・啓発等に向け、多様性のある社会づくりを目指し、様々な取組の実践者が参加するワークショップを開催し、課題の把握や必要な取組に関する意見を聴取する。
- 開催回数 2回（8月3日実施済み。9月に第2回目開催予定）
- 出席者 関連する取組を行う個人、団体・企業等の代表者など
- 主な意見
 - ◇ テレビCMは、受け入れやすい内容となっており良い。
 - ◇ 女性が差別を行う側となる再現動画もあれば良いのではないかと。
 - ◇ 差別する側・される側が存分に意見を交わす場を設けられないかと。
 - ◇ 動画等で差別をされた側の心情を伝えてはどうか。



2 イベントにおけるブース出展

- 集客力のある県内イベントにおいて、多様性・寛容性のある社会づくりに向けたPRを行う。
- 開催回数 2回
- 出展イベント
 - ◇ 7月29日、30日 「子育て応援団すこやかあきた」
会場 県立武道館
入場者数 約27,000人 ブース来訪者 約1,000人
 - ◇ 10月7日、8日（予定）「ABSまつり」
会場 エリアなかいち
入場者数 約20,000人（見込み）



3 男女共用ピクトグラムの整備

- 男女共用である旨の表示がないトイレを有する県有施設において共用ピクトグラムを整備する。
- 表示内容 国ガイドライン（JIS規格）に基づく
- 対象施設 169施設
- 整備箇所数 373箇所



【表示前】



【表示後】



【表示前】



【表示後】

III これまでの取組に関する意見

今年度行った講座等におけるアンケートや副読本に関するアンケートにおいて、次のような意見があった。

【広報・啓発全般について】

- ◇ 小さい子に学ぶ機会を増やしてほしい。
- ◇ 若者よりある程度の年齢の方が差別をしていると思うので、そうした年齢層に向けて発信した方が良い。
- ◇ 若者も年配層が無意識で差別してしまうことを理解することが必要ではないか。
- ◇ 多様性に関する理解不足が多々あるので、講座などで理解促進を図る必要がある。

【副読本について】

- ◇ 差別やいじめの学習のよりどころとなる資料として活用できる。（小学生用）
- ◇ インターネットやSNSを使用した差別やいじめの例を取り上げてほしい。（小学生用・中学生用・高校生用）
- ◇ 差別をしている側の随りやすい考え方についても触れてほしい。（高校生用）
- ◇ マンガやイラストなどで、他の具体例も紹介してほしい。（小学生用・中学生用・高校生用）